

膝蓋大腿関節症 重要用語・略語

●重要用語

AKPS：Kujala (1993)による Anterior Knee Pain Scale の略。膝蓋大腿関節症に対する患者立脚評価法。13項目で構成されており、疼痛頻度、荷重時、歩行、階段、ジャンプ動作など様々な動作中における膝関節前部の主観的疼痛と動作困難度について各項目で採点し、合計は0点（重度）～100点（正常）となる。

Kujala Score：The Kujala Anterior Knee Pain Scale (AKPS)が正式名称であり、1993年に開発された PFPS の機能評価法。13項目の質問があり、得点が高いほど運動機能が良好で疼痛が少ない。合計100点となる。

McConnell らによる膝蓋大腿関節痛に対するテーピング：膝蓋大腿関節痛の原因として膝蓋骨が外側変位し、膝関節屈伸運動時に膝蓋骨外側部が膝蓋大腿関節の外側グループに接近することで痛みが生じると考えられ、テーピングにより膝蓋骨を内側に引き、膝関節屈伸時の膝蓋大腿関節痛を減弱させる方法。

姿勢安定化運動：Velvar(2015)による膝蓋大腿関節症に対する姿勢を安定化させる目的で実施することを推奨されたストレッチング、体幹や下肢の筋力強化、バランスボールを用いたエクササイズなどが含まれる。

機能的安定化運動：Balon(2014)による2週間の体幹と股関節の運動制御、3週間の体幹と股関節の筋力強化と荷重位での運動制御、そして3週間の股関節による体幹前傾と前額面上の機能的運動によるエクササイズプログラムである。

膝外転角度：前額面からみた大腿骨に対する脛骨のなす角度を示す。運動学的には膝関節外反角度と同義である。

初期接地時：歩行周期における踵接地の時期を示す。

荷重応答期：歩行周期における踵接地から足底接地までの時期を示す。

●略語

VAS：Visual Analogue Scale（視覚的アナログ尺度）